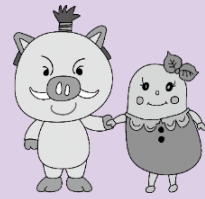
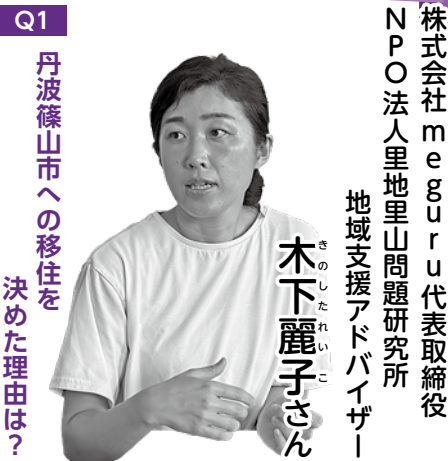


# フィフティだより



発行 丹波篠山市男女共同参画センター「フィフティ」  
☎079-552-1511  
丹波篠山市黒岡191 丹波篠山市民センター1階

## 活躍する女性へ インタビュー



株式会社 meguru 代表取締役  
NPO法人里地里山問題研究所  
地域支援アドバイザー  
木下麗子さん

Q1 丹波篠山市への移住を決めた理由は？

2019年6月にNPO法人里地里山問題研究所(さともん)が取り組んでいる、川阪オープンフィールドに参加したことが、丹波篠山市との出会いです。川阪オープンフィールドは、遊休農地を活用して地域支援活動を行うのですが、川阪の人の良さと自然豊かな農村の景観に魅了され、月2回のペースで参加するようになりました。

管理栄養士の資格を生かして子どもの食育事業を展開する会社を運営していますが、丹波篠山の野菜はとて新鮮で美味しいので、子ども達の野菜嫌いが軽減すると思い、会社の食育事業に取り入れるようになりました。約5年間、自宅がある西宮市と丹波篠山市を行き来する生活を続けていましたが、2024年に市の獣がい対策支援員への就任を機に、家族で移住してきました。

Q2 獣がい対策支援員の活動内容は？

主に畑地区で活動しましたが、地域

の人の声を聞くことを第一に、大きく2つのことに注力しました。  
一つ目は、獣害柵の設置、点検の支援です。高齢化が進む地域において、地域の人の負担を軽減し前向きに取り組める方法を考えました。地域の人の困りごと、外から見ると興味を持って解決のために協力してくれる人もいますので、そうした人と地域をつなぐパイプ役を担ってきました。  
二つ目は、関係人口の創出です。黒豆の定植作業などでは、作業だけでなく、地域の人と都市部の人との交流から、地域の課題や良さを知るきっかけづくりを大切にしています。毎回、阪神間などから子育て世代が70人ほどの参加がありますが、地域の人はいつも得意分野を生かして盛り上げてくださるので大変心強いです。

Q3 株式会社 meguru の仕事内容は？

会社の理念は「毎日の食卓から、人生を豊かに」。人と食、食と自然を考える教室の運営をしています。子どもを育てる家庭において食は欠かせないものであり、親が食に興味を持つことはもちろん、調理をすることが楽しいと思ってもらうことが一番だと思います。そのため、離乳食など子育て世代を対象とした料理教室やセミナーを、オンラインも活用しながら毎週実施しています。また、市内の農家さんに協力していただき、丹波篠山産の野菜を阪神間の子育て世帯に届ける「お野菜直送便」を実施。毎月約40件届けていて、その野菜を使ったレシピの紹介や料理教室も行っています。さらに、市

内外のいくつかの福祉施設や保育園の給食の献立監修も行っています。  
私の仕事は、約8割が会社の仕事、残り2割が地域支援アドバイザーとして獣がい対策など地域の取り組みを支援しています。  
Q4 仕事と子育ての両立について  
子どもの予定と仕事が重なったりすると大変だなと思うことはありますが、日常は中学3年生と小学4年生の子どもたちが冷蔵庫にあるもので料理もできるようなってきましたし、夫も料理や洗濯をしてくれず。みんなで協力し、楽しんでいます。  
Q5 丹波篠山市の暮らしは？  
友人に「丹波篠山に移住して何が良かったか」とよく聞かれますが、家から外に出ると、何もかもリセットできる環境が気に入っています。自然の中を歩くだけでマイナスイオンを浴びることができず。都会は人が多く、何をしても待ち時間が長く疲れます。今は、夫と二人で、7反のお米と3反の黒豆作りに挑戦中です。今後は野菜づくりなどにも挑戦し、もう少し丹波篠山らしい暮らしをしていきたいです。

Q6 今後の抱負は？

今後は、自分の活動に共感してくれる仲間を増やしてさらに地域を盛り上げたいと思っています。将来的には、市外の仲間だけでなく地元のお世代の人とも連携できたらと思っています。

令和8年7月4日 男女共同参画研修会講演要旨

## 「ジェンダーギャップって何だろう -まちや企業が消えるかもしれない大問題-」

豊岡アートアクション理事長  
なかがいむねはる  
(元豊岡市長) 中貝宗治さん



### 1. 地方最大の危機「人口減少」の真因

地方自治体が直面する最大の危機は人口減少です。要因は少子化ですが、本質的な原因は夫婦が持つ子どもの数が減っているからではなく、子を持つ世代の「夫婦の絶対数が減っていること」にあります。豊岡市では、1990年から2020年の30年間で49.7%も減少しました。その要因は、若者の転出超過と未婚率の上昇にあります。若者の動向を見ると、10歳代で大幅な転出超過、20歳代でやや転入超過となっています。この10歳代の転出超過(赤字)を20歳代の転入超過(黒字)でカバーしている率を、豊岡市では「若者回復率」と言っていますが、2015年から2020年の5年間は、男性41.6%に対し、女性は28.5%でした。つまり、豊岡は、若者、特に若い女性に選ばれていないと言えます。日本の多くの地方が同様の状況にあります。

### 2. 地方の魅力を創出するエンジン

人口減少を緩める手段として、私たちは、豊岡に暮らす価値(魅力)を創ることが大事と考え、世界で輝く「小さな世界都市」を実現するためのエンジンとして次の4つに注力してきました。

1つ目は、「環境都市『豊岡エコバレー』の創造」。コウノトリも住める豊かな環境づくりに取り組み、現在では、全国の野外に生息するコウノトリは約700羽に達しています。

2つ目は「受け継いできた大切なものを守り、育て、引き継ぐ」。城崎温泉では近年インバウンド、外国人観光客が急増しています。彼らは日本の文化に魅力を感じています。地域の文化を大切に守ってきた地方にも大きなチャンスがあるという証明です。

3つ目は、「深さをもった演劇のまちづくり」。映画「国宝」のロケ地になった芝居小屋「永楽館」の復活や城崎国際アートセンターのリニューアルオープン、演劇を観光に生かす豊岡演劇祭の開催など、芸術文化を活用した魅力あるまちづくりを実践してきました。

### 3. 4つ目はジェンダーギャップの解消

これほど魅力の基盤づくりに取り組んできたにもかかわらず、若い女性が帰って(入って)きません。そ

こで気づいたのが、根強いジェンダーギャップの存在です。私たちのまちは、女性たちに家事・育児・介護や補助的仕事以外の役割を期待してきたでしょうか。女性たちは公平な扱いを求め、男性優位のまちを嫌って、「すーっといなくなった」のです。

### 4. 職場から始める意識改革

ジェンダーギャップの現場は主に家庭、地域、職場とありますが、豊岡ではまず「職場」から手をつけることにしました。私たちは企業と連携し、「豊岡市ワークイノベーション会議」を立ち上げ、経営者や人事担当者セミナー、女性リーダーシッププログラム、豊岡みらいチャレンジ塾、ジェンダー教育などに取り組んできました。ジェンダーギャップの問題点は、人口減少の加速、経済的損失、社会的損失、そして公正さの欠如です。豊岡市で初めて部長になった女性から、「旧町役場では、女性が課長補佐になることなど夢のまた夢だと思っていた。幸い自分は部長になることができた。しかし豊岡市役所の女性職員は、さまざまなものを断念してきた」と言われたときは大きな衝撃を受けました。私は、女性職員の、生身の人間としての悔しさや憤り、あきらめに気づいていなかったのです。今、女性の管理職比率の目標30%に対し、男性の中には「女性に下駄をはかせている」という人がいます。しかし、これまで女性に家事、育児、介護までやってもらい、自分は思う存分仕事をして出世してきた男性こそが、下駄をはかせてもらってきたのだと言えます。

### 5. 現れてきた変化とまとめ

これらの取り組みによって、豊岡市役所の男性職員の育休取得率は2024年度に100%を達成しました。民間でも男性社長が自ら1か月の育休を取得する事例や残業0に取り組み、時間外労働月平均2時間を達成、女性管理職比率を54%まで引き上げた企業が出ています。これらの企業に共通しているのは、男性であろうと女性であろうとスキルを磨くチャンスを与え、能力を十分に発揮してもらうという姿勢です。

2021年豊岡市ジェンダーギャップ解消戦略を策定しました。女性が女性だというだけでさまざまな夢を断念せざるを得ないような社会に生きてほしくないという思いを込めています。

一方で、男性にもつらいところがあります。「長男だから」と夢をあきらめて地元に戻ってこられた人もいます。だからこそ、女性であろうと男性であろうと、働きやすく働きがいのある職場、生きやすく生きがいのあるまちを創ること、それこそが地方創生であり、人を惹きつけるまちづくりに繋がります。

ジェンダーギャップの問題を置き去りにしているようなまちや企業、国が世界で輝くはずがありません。言い換えればいち早くジェンダーギャップ解消に取り組めば、世界に輝く、まちや企業になれるはずです。

丹精こめて花を咲かせることはできないが、昔から花が大好きだった。中でも山野草が好きで、20代の頃は高山植物を見るために三千メートル級の北アルプスによく登った。コマクサ、ハクサンイチゲ、チングルマやイワギキョウなど、苦しい思いをしてやっと会えるからこそ一層美しく見えたものだった。5年暮らした熊本では、初夏に咲くユウスゲの花が可憐で美しかった。黄色いユリ科の花で、阿蘇の山々を背景に風に揺れて咲く姿が好きだった。この丹波篠山あたりでも咲くらしいけどまだ見たことがない。

市民センターで開催される山野草の展示会は、毎回とても楽しみで、高い山に登らずとも（もう登れないけれど…）「また会えたね」と声をかけながら、貴重な花々を堪能させていただいている。

丹波篠山の市の花は「ササユリ」とのこと。うすいピンクで、小柄で愛らしい。切り花にしても映えるし、カサブランカ

のような強烈な匂いもないし、私は好きだ。沖永良部島は夏になると、背の高い真っ白なテッポウユリが島中に咲き誇る。数少ない産業のひとつでもある。一度見たくて遠い永良部まで見に行った。海の青と真っ白なユリの花がまぶしいほど美しかった。

丹波篠山は堀に咲く蓮の花も美しい。朝に咲き、夕方は眠るように閉じるので、去年は堀の近くに宿をとって、朝早くに見に行った。咲くときに「ポン」と音がすると聞いたので、私は目をつぶって、耳をすまして音を待ったけれど、聞こえなかった。数年前、すっかり枯れてしまった堀の蓮を、市や有志の方々が外来種のカメの捕獲などをを行い、再び美しい花が咲くようになった。私はその苦労に思いをはせながら、大好きな花々を楽しんだ。蓮はきれいな水ではなく、泥の中に根を張り、美しい花を咲かせる。仏教では「煩惱や苦しみの現世に生きながら、清らかな心を育てる」ことの象徴として仏画など

にも描かれ、仏像の台座も蓮の花びらであることから、この花を見ていると心が清められる心地がする。

宝塚の市花は「スミレ」だけれど、花瓶に飾ったりできないし、かわいいけれど見映えはしない。植木のまち宝塚で生産量が多いのは「牡丹」と「ダリア」。しかし、宝塚の代表的な歌、「スミレの花咲く頃」には勝てなかったらしい。ポタンの園もあるし、ダリア祭りもあるのにと、いうことで市民の思いが形となって、「第2の市花」としてダリアが加えられた。花は人々の暮らしに潤いを与え、町も人の心も豊かにする、と私は信じている。

好きな花は？と問われると、「コスモス、露草、芙蓉や梅とか…」とモゴモゴ言いながら、やっぱり一番好きなのは「石楠花」と答える。高野山はシャクナゲの名所だということを先日知った。5月が満開のその時期に、お寺巡りを兼ねて高野山へ行くのを今から楽しみに待っている。

第8回

中川智子アドバイザーの

エッセイ

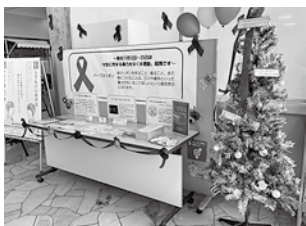


## 女性に対する暴力をなくす運動 -パープルリボン運動-

毎年、11月12日から25日は、「女性に対する暴力をなくす運動」期間です。

暴力は、どんな理由があっても決して許されるものではありません。特に、配偶者や交際相手などからの暴力、性犯罪、ストーカー行為などの女性に対する暴力は、女性の人権を著しく侵害するものであり、男女共同参画社会を形成

していく上で、克服すべき重要な課題です。運動期間中は、女性に対する暴力根絶のシンボルであるパープルリボンにちなんで、市役所庁舎を紫色にライトアップするとともに、男女共同参画センターでパープルリボンの配布（数量限定）や啓発ポップの提示などを行います。



相談

## ちょこっと相談

子育てのことや家族のことなど、少し話したら気持ちが楽になりますよ。男女共同参画アドバイザーの中川智子さんが秘密厳守で話を聞きます。

- 日時 11月20日、12月18日、令和9年1月15日、2月19日、3月12日 ①13:00～ ②14:30～
- 定員 各回1人（グループは3人まで）/ 50分間※先着順。

ちょこっと相談に参加された方から

「中川さんに相談して、アドバイスをもらってありがとうございました。とても勉強になり自治会もみんなで話し合い、良い方向に向かえるようになりました。」などの、うれしい感想が寄せられています。

## 男女共同参画センター

# 催しのご案内

【共通事項】

- 会場＝丹波篠山市民センター
  - 申し込み＝男女共同参画センター（☎552-1511）
  - 一時保育＝無料、各開催日の7日前までに要申し込み
- ※各事業の詳細については、開催日のおおむね1カ月前にホームページでお知らせします。

相談

## 女性のためのチャレンジ相談

再就職や起業、資格取得など、仕事に関する幅広い相談ができます。（各回50分）

- 日時 11月6日（金）  
①13:00～ ②14:00～ ③15:00～
  - 対象 女性（県内在住、在勤、在学）
  - 定員 各回1人/50分間
  - 講師 いいはちひとみ 飯鉢仁弥さん（キャリアコンサルタント・ライフシフトパートナー）
- ※一時保育あり。



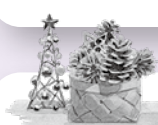
要予約

相談

## フィフティカウンセリングルーム

家庭内での夫婦関係や親子関係、職場での人間関係など、さまざまな悩みを女性相談員がサポートします。

- 日時 11月11・26・29日、12月9・24・27日、令和9年1月13・28・31日、2月10・25・28日、3月10・25・28日  
①10:00～ ②13:00～ ③15:00～
- 定員 各回1人/50分間（先着順）



フィフティワークショップ

## アレンジポットでクリスマス

金や銀に色付けした木の実やドライフラワーなどを、オアシス入りのカップに自由に飾り付け、世界に一つだけの「クリスマスアレンジポット」を作りませんか？

- 日時 12月5日（土）10:00～11:30
  - 定員 20人（先着順） ●参加費 500円
  - 講師 うまにしげい 植西恵子さん（兵庫県認定園芸療法士）
- ※一時保育あり。



要予約

連続講座 第5回フィフティ連続ミニ講座

## 篠山の里山を楽しむ方法 ～篠山自然派がつなぐ食と人～

丹波篠山オーガニックグループ「篠山自然派」は、多様なメンバーがアイデアを出し合い、活動の場を広げています。この講座では、これまでの歩みを振り返り、丹波篠山のオーガニックの魅力をお伝えします。

- 日時 令和9年1月29日（金） 13:30～
- 定員 30人（先着順）
- 講師 さかいきくよ 酒井菊代さん、中川智子さん



要予約

連続講座 第6回フィフティ連続ミニ講座

## 大相撲の女人禁制を考える

大相撲の本場所の千秋楽表彰式で授与される内閣総理大臣杯。日本初の女性総理は日本相撲協会が守る土俵の「女人禁制」の伝統を尊重し、土俵上での表彰を見送りました。かつて宝塚市の巡業で土俵上の挨拶を断られた女性市長の立場から、大相撲の女人禁制についてお話しします。

- 日時 令和9年3月3日（水） 13:30～
- 定員 30人（先着順）
- 講師 中川智子さん



要予約